

仕業検査外注化で偽装請負の疑い！

大阪労働局の見解は「その作業は不適切です。アウトです」

会社は、7月1日より東京と大阪の仕業検査業務の上回り（車内）検査を直営からSEKに外注化しようとしています。会社はさらなる外注化により現行の直営社員を（一班）3名から2名に減らし、さらに人件費をうかせようとしているのです。

今回の外注化施策が、今までと同じ作業を、同じ時間で、1名少ない人数で行わせようとしているため、会社がいう安全最優先に逆行していることはいうまでもありません。否、これが会社のいう安全最優先の実態です。

また、人件費をうかせるためには外注会社との契約内容までも曖昧なままにごまかそうとしています。

本来、SEKに外注化した作業は、SEKによる責任施行（丸投げ）のはずです。

JR側の職場説明会では、「SEKは作業があった場合、JRのA担当に連絡をします。A担当は作業についての指示をSEKにして下さい」と言っています。しかし、職業安定法44条によると、直営社員が直接、外注会社社員に指示を出すことが出来ないように決まっています。

また、現在行われているパンタグラフのスリ板交換についても、スリ板の判断はJR社員で、交換作業はSEK社員が行っています。SEK社員はJR社員と一緒に屋根上に上がり、その場で指示を受けて交換作業を行っているのです。要するに、SEKの業務実態は、外注（業務委託）なのに、実際は派遣された社員のような作業実態になっているということです。

仕業検査の実態を聞いた大阪労働局の需給調整指揮官の見解は、「極めて不適切です」「（作業のやり方で）グレーゾーンはあるけれども、これは限りなくブラックです。アウトです。」「組合の方からも会社に話しをしてみてください。」と言っています。

私たちは、この問題について会社の見解と是正を求めています！